

《あそびと生活を通して》

主体的な学びを引き出す教育をより具体的に言うと、こども自らが関心を持って行動し「できないことができるようになる」「気づかないことに気付くようになる」「わからないことがわかるようになる」そうした経験を積み重ねることです。これが幼児期における育ちであり、学びであるということです。

こどもは自分で試し、繰り返し挑戦することで体得していきます。保育教諭はそこに寄り添いこどもが主役のドラマを支えていきます。

上士幌町認定こども園は遊びと生活を保育の中心に据えます。『あそび=放任』ではありません。遊びこむからこそ育まれる力があります。『生活=束縛』でもありません。ともに暮らすことで一人ひとりが自分らしく生きることを支え合う社会性を養います。

